

令和 6 年度第 1 回幸手市地域公共交通あり方検討会 会議録(要旨)

日時	令和 6 年 10 月 8 日(火)午後7時から午後 9 時
場所	幸手市役所第二庁舎 2 階 第 2 会議室
参加委員	井野則明 鈴木徹夫 小森谷進 小曾根昌雄 今井謙悟 細川壽江 稲垣仁美 渡邊健 益山雅男 峰岸三恵子 寺川直樹
事務局	くらし防災課長 野川、主幹 落合

1 開会

2 市長あいさつ

- ・ 幸手市地域公共交通計画の基本方針「みんなで考え みんなで育てる、持続可能な公共交通の実現」には、市民・運行事業者・行政が一緒になって、将来の公共交通について考えていく必要がある。検討会の委員の皆様におかれましても、市民の代表として忌憚のない御意見を交わしていただき、今後の地域公共交通について検討をしていただきたい。

3 委嘱状交付

4 委員紹介

自己紹介形式にて紹介。所属団体等及び幸手市の地域公共交通に対する思い等を各々発言。

5 会長・副会長選出

会長：寺川直樹委員(各委員からの推薦者なし、事務局案承認)

副会長：鈴木哲夫委員(会長指名)

6 会長あいさつ

7 議事

議事(1)幸手市地域公共交通あり方検討会について

幸手市地域公共交通あり方検討会設置要綱及び幸手市地域公共交通計画を用いて、検討会の設置意義、検討内容について事務局から説明。

(質疑応答)

Q 検討会の内容は、地域公共交通会議等に報告されるのか。

A 検討会で検討された内容は、幸手市地域公共交通会議や庁内会議に報告し、

これらの会議における公共交通検討の際の資料として活用していく予定。

Q 令和7年度以降も検討会は継続するのか。

A 現在の委員の任期は令和7年3月末だが、検討会は令和7年度以降も開催する予定。

議事(2)幸手市の概要について

事務局から市内循環バス・乗合型デマンドタクシーの概要及び実績の報告、幸手市の財政状況について説明。

(意見)

- ・ 使いやすい路線になってない。利用者の方のニーズをしっかりと捉えて最も適切なルートを設定すれば利用者は増えると思う。
- ・ 通勤・通学時間帯の便がない。
- ・ 幸手駅に行くのにウェルスでの乗り換え時間が長すぎる。
- ・ 外回り便がない。内回り便だけでは遠回りで使いづらい。
- ・ 電車に乗るのにコモンシティで下車して、国道4号を横断して杉戸高野台駅に行っている。
- ・ 南栗橋駅に行くごかりん号との接続、幸手市内を通過するあいあい号のバス停設置も考えられる。
- ・ 通勤通学としての足とは幸手市は考えていないようで、乗り継ぎが非常に使いづらい。
- ・ 乗る人、とりわけ高齢者のことを考えることが大切だと思う。
- ・ 子どもたちの同級生は交通の便が悪いからと言って出て行ってしまう。
- ・ 予約2時間前縛りのうえ、いっぱいだからと断られた。
- ・ 境町の無人バスのような、乗ってみたいと思える公共交通を考えたい。
- ・ どうやったら人が乗ろうと思うようなルートや時間にできるのか検討したい。
- ・ グリーンスローモビリティなどの新しい技術を取り入れて、幸手市の中を少し活性化していければ良いと思う。
- ・ 東側の地域にも高齢の方は大勢いると思われるが、自宅からバス停までが遠く、高齢の方はバス停まで行くのが大変なので、市内循環バスには乗れないだろうといつも思っている。
- ・ 市の財政の話で、一番大切な事は、財源は無尽蔵ではないという事。公共交通は、わかりやすく言うと、市が赤字補填をしているようなもので、サービスをやればやるほど赤字が大きくなり、将来のつけになってしまう。どうやったら住民の方々に効果的でかつ費用が抑えられた施策ができるのかを、我々も頭に入れながら検討する必要があると思う。

(質疑応答)

Q 国からの補助はないのか。

A 路線バスと循環バスには補助がある。旧デマンドには補助があったが、現在実証実験中のデマンドは国からの補助は受けていない。

Q 乗合型デマンドタクシーの今後の予定は。

A 実績や利用者からのご意見等を踏まえて、本運行に移行するかを検討していく。乗合型デマンドタクシーが仮に本運行した場合も、市内循環バス終了と同じタイミングで次の公共交通をどうするか皆様にご検討いただきたいということでこの会があるとうご理解していただきたい。

Q 地域公共交通計画書の 75 ページの今後の進め方の中に経費の関係が出ている。令和 10 年度目標で 53,791 千円、現在値(令和 4 年度)が 38,410 千円で目標としては 15,000 千円くらいこれに投入する経費を確保しましょうとあるが、これは年度別では改めて示すことはしないのか

A 令和10年度目標の額は、令和6年度予算要求時の市内循環バス及び乗合型デマンドタクシーの業務委託料を合算したものである。これは、各年度の目標額としては示していないが、公共交通の運行に係る市の予算を、令和10年度まで令和6年度と同額程度確保することを示しているものである。(第2回検討会にて回答)

議事(3)市民アンケートについて

地域公共交通に関する市民アンケート及び幸手市乗合型デマンドタクシー利用登録者アンケートの実施方法及び内容について事務局から説明。

(意見)

- ・ アンケートを実施した際に一番多いのは、答えないけど意見を持っている人であると思う。その意見が吸い上げられないというのが一番の問題だと思う。できるだけ吸い上げられるようにして、なおかつ有効な回答数をどの程度見るのか、市として考えておかれた方が良い。
- ・ 問2のところに「困っている目的地がありましたらご記入ください」を入れるのはどうか。困っている目的地が分かれば改善の計画が立てられると思う。
- ・ 3-3で⑤に「お休み時間の運行」とあるが、地域公共交通計画を見ると、「乗り換えできる便の増加」の方がアンケートの回答率が高い。「乗り換えできる便の増加」の方が適切である。
- ・ 5-3の選択肢に東鷲宮駅、杉戸高野台駅、東武動物公園を追加してほしい。

(質疑応答)

Q 広報さつてに折込むと説明があったが、例えば 1 軒に 2 世帯住んでいたり、親と子がそれぞれ別の公共交通を使っているなど、公共交通利用者が複数人同居している場合もあると思う。親と学生では利用する目的が違う。そこはどうお考えか。

A 配布方法は広報紙に折込みになるので一世帯につき 1 枚になってしまうのはご了解いただきたい。他の方法で回答することも可能なので、意見が違う場合はぜひホームページを利用して欲しい。

Q ご家族で、複数人利用されている場合、複数枚回答してよいとのことなので、その辺をうまくアナウンスをしてもらえれば良いかと思う。

A アンケートの QR コードの説明文を強調してお知らせする。

Q アンケートの各設問のほとんどが複数回答可になっていない。利用目的も「通勤・通学」「買い物」「通院」等複数回答がなかったらどれか一つになってしまい調査したい目的と実態が合わないと思う。

A 複数回答の項目については、もう一度内容を精査して、複数回答が必要なところは修正する。

Q 問 5 の市域を 3 つに区分した地図は上位概念である協議会で整理し決まったものか。ニーズの違いがあるエリアを視覚化したのであればよいと思うが、このエリアにこだわった対策をとると、誤った解を導いてしまう恐れがある。

A 問 5 の地図については、公共交通計画の中でこれからの公共交通ネットワークとして中央、東、西に分けてそれぞれの地域にふさわしい公共交通を今後考えていく必要があると整理をしたもの。街中と、田園地帯中心の東側、東鷲宮駅によった住宅地域がある西側ということで、地域的な特性も加味してエリアに分けている。

Q この QR コードは何回でも読み込めるものか。また、一人で何回でも投票できるとしたら、重複した場合もカウントしてしまうのか。

A 何回でも読み取り可能である。1 人の方から重複回答があった場合も、本アンケートは無記名式であり、同一人物かどうか判断できないため、カウントせざるを得ない。

8 その他

事務局から、次回以降に日程について、謝金の支払いについて事務連絡。

9 閉会